

キーワード 認知症、高齢者、口腔ケア、アプローチ、受け入れ

研究概要

認知症では、その進行に伴い日常生活動作（ADL）は低下し要介護状態となりますが、認知機能低下や認知症の行動・心理症状（BPSD）のためにケアを受け入れられない状況があります。ケアや介護を受け入れてもらえないことは、ご家族、医療介護者が抱える悩みでもあり、無理にケアを進めることは対象者の意思に反しBPSDを誘発する恐れがあります。本研究ではエキスパートナースが口腔ケアの受け入れが困難な認知症高齢者へ行う口腔ケアアプローチの抽出を行いました。認知症高齢者への口腔ケアは、対象者の言語や視線の動き、握手などの言語・非言語的反応から意思を汲み取ることの試行錯誤を繰り返し、安全安楽のもとに展開されていました。高齢化の進行により高齢者の孤立、支援が必要な高齢者の増加と保険医療サービス体制の整備等多くの課題があります。認知機能低下等で意思表示が難しい場合や、全身状態の変化により重要な意思決定を迫られたときに高齢者の意思決定を尊重し、最後までその人らしく生きる支援をすることが研究テーマです。

アピールポイント

認知症の人が受け入れられるコミュニケーションや口腔ケアの具体的アプローチを明らかにすることで、認知症高齢者の意思尊重や誤嚥性肺炎予防などQOLを向上させる可能性があります。認知症の人に関わるご家族、医療・介護者、地域の方々などにとっても、認知症や認知症の人への関わり方についての理解やより良い実践に繋がる可能性があります。

応用分野

少子高齢化が進むなかでコミュニティの高齢者と地域住民が互いに協働することで、高齢者のみならず多様な人が安心して暮らせるコミュニティの形について検討したいと考えています。